※令和４年度以降入学生用

学校番号	４０５

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	精選「現代の国語」　（東京書籍）						
副教材等	意味から学ぶ頻出漢字 3000（第一学習社）　「新訂版常用国語便覧」（浜島書店） リテラ「速読レッスン」　倫理　VOL1（文英堂）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・評論文や実用文などを読んでいく中で、必要な情報を読みとり論理的に考える力を身につけましょう。
・ノートを取る際は、板書されている内容だけではなく、大切だと思った情報や自分で考えたことなども積極的に書いていくようにしましょう。
・音読ははっきりとした声で正確に行うように心がけてください。

2　学習の到達目標

・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。
・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。
・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようとしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	相手に「届く言葉」とそうでない言葉の違いについて，対比的に書かれた評論を読み取る。 ［教材］「届く言葉」	a：常用漢字の読みに慣れ，主な常用漢字を書き，文や文章の中で使っている。 b[読]：文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え，要旨や要点を把握している。 c：粘り強く評論の文章構造や対比関係を捉え，学習課題に沿って評論の理解を深め，現代の話題や問題に関心を持とうとしている。	ノート 定期考査	ノート 定期考査	ノート 振り返りシート
	「水」を巡る日本と西洋の文化の比較 ［教材］「水の東西」	a：文，話，文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 b[読]：文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え，要旨や要点を把握している。 c：比較を通じて粘り強く「東西」の文化の差異への理解を深め，今までの学習を生かして自分の興味や関心を他者に伝えようとしている。	ノート 定期考査	ノート 定期考査	ノート 振り返りシート 発表
	情報を分かりやすく整理し，表現を検討して手順書を書く。 ［教材］手順を整理して正確に伝える	a：文，話，文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 b[書]：自分の考えや事柄が的確に伝わるよう，根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに，文章の種類や，文体，語句などの表現の仕方を工夫している。 c：積極的に手順書の特徴を理解し，学習課題に沿って整理した情報を正確に伝えられるようにまとめようとしている。	ノート 定期考査	ノート 定期考査	ノート 振り返りシート 発表 発表原稿
	辺境を旅した体験に基づく，筆者の「旅」についての主張を的確に読み取る。 ［教材］「今ここにある無数の未知」	a：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに，語句や語彙の構造や特色，用法及び表記の仕方などを理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 b[読]：文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え，要旨や要点を把握している。 c：積極的に筆者が考えたことを理解し，学習課題に沿って表現に託された意味を捉え，自己との関係の中で，世界についての考えを深めようとしている。	ノート 定期考査	ノート 定期考査	ノート 振り返りシート
二学期	目的や相手に合った分かりやすい説明をする。 ［教材］分かりやすい説明をする	a：話し言葉と書き言葉の特徴や役割，表現の特色を踏まえ，正確さ，分かりやすさ，適切さ，敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し，使っている。 b[話/聞]：話し言葉の特徴を踏まえて話したり，場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど，相手の理解が得られるように表現を工夫している。 c：積極的に分かりやすさ，適切さに配慮した表現を理解し，学習課題に沿って相手の反応を予想して，話の構成や展開を工夫して話そうとしている。	発表 発表原稿 定期考査	発表	発表 発表原稿
	読んだ文章から問いを作り，構成を工夫して意見をまとめる。	a：引用の仕方や出典の示し方，それらの必要性について理解を深め使っている。	発表 発表原稿	発表 発表原稿	発表 発表原稿

※令和４年度以降入学生用

	［教材］新聞記事をもとに問いを作り，意見をまとめる	b[書]：目的や意図に応じて，実社会の中から適切な題材を決め，集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して，伝えたいことを明確にしている。 c：積極的に情報の収集や整理をし，学習課題に沿って伝える相手の理解が得られるように，文章の効果的な組み立て方や接続の仕方を意識して，自分の意見を文章としてまとめ，グループ内で話し合おうとしている。	定期考査		ワークシート
	仕方を工夫して話す。 ［教材］本を紹介する	a：実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。 b[話/聞]：，自分の考えが的確に伝わるよう，自分の立場や考えを明確にするとともに，相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど，話の構成や展開を工夫している。 c：積極的にお薦めの本を挙げ，学習課題に沿って紹介の準備をし，本を紹介する活動をしようとしている。	発表 発表原稿 定期考査	発表 発表原稿	発表 発表原稿 ワークシート
	情報の信頼性を吟味し，伝える相手や目的に応じてまとめる。 ［教材］「調べた情報を説明資料にまとめる」	a：個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 b[書]：目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて，文章全体を整えたり，読み手からの助言などを踏まえて，自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 c：積極的に説明資料の作成に必要な情報を収集，整理し，学習課題に沿って伝える相手や目的を意識した説明資料を作成する活動をしようとしている。	発表 発表原稿 定期考査	発表 発表原稿 ワークシート	発表 発表原稿
三学期	読み比べて考えを明確にし，伝わりやすい構成で書く。 ［教材］異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く	a：主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 b[書]：自分の考えや事柄が的確に伝わるよう，根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに，文章の種類や，文体，語句などの表現の仕方を工夫している。 c：積極的にテーマに沿った本を探し，学習の見通しをもって異なる主張の文章を読み比べ，自分の考えが読み手に伝わるように意見文としてまとめようとしている。	発表 発表原稿 定期考査	発表 発表原稿	発表 発表原稿
	話し合いの進め方を工夫し，考えを深める。 ［教材］情報を整理しながら話し合う	a：情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 b[話/聞]：論点を共有し，考えを広げたり深めたりしながら，話し合いの目的，種類，状況に応じて，表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫している。 c：積極的に「企画会議」の進め方に沿って論点を共有し，学習の見通しをもって提案内容を整理しながら，話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しようとしている。	発表 発表原稿 定期考査	発表 発表原稿	発表 発表原稿 ワークシート
	人工知能に関して人間と比較しながら論じた評論を読み，両者の違いについて考える。 ［教材］「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」	a：実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに，語句や語彙の構造や特色，用法及び表記の仕方などを理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにしている。 b[読]：目的に応じて，文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら，内容や書き手の意図を解釈したり，文	ノート 定期考査	ノート 定期考査 振り返りシート	ノート 定期考査 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

		章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに，自分の考えを深めている。 c：粘り強く筆者が挙げた事例の意味を読み解き，今までの学習を生かして筆者の意図を正しく理解しながら，自分の考えをまとめようとしている。			

４　学習の活動

※表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　20　）時間

・書くこと　…　（　30　）時間

・読むこと　…　（　20　）時間